



戦後ゼロからスタートした 宜野湾の物語

～宜野湾の戦後・復帰・現在を見る～

たくさんの方のメディアにも取り上げられ、皆さんご存じだと思いますが、今年には沖縄戦の終結から80年の節目を迎えました。当館でも、関連する企画展を二つご用意しており、第一弾となる「沖縄戦の中の宜野湾」戦後80年をむかえて～」が、慰霊の日をはさんだ時期に行われ、11月1日からは、第二弾「宜野湾 戦後生活史」と題した企画展を開催しています。

今回は「戦後の宜野湾の様子」をテーマにしており、米軍にとらえられ、本島中・北部の収容所にいた住民が、すぐに元の居住地に戻れたのか、農地を失った多くの住民は、どのような仕事に就いたのかなど、凄惨な沖縄戦をくぐり抜け、土地も家も失い、ゼロ（何もかも無くなってしまった）からスタートした人々が経験した米軍占領下の生活を紹介します。また、米軍人・軍属

による事件・事故が横行していたなか、やっとの思いで田畑を耕し、以前の暮らしを取り戻しつつあった地が米軍に強制的に奪われる「土地接収」が大きなきっかけとなり、各地での復帰運動につながっていった事など、戦後、激動の時代を経て移り変わっていった宜野湾の様子を、写真や実物資料などで紹介しています。



①メスホール（普天間食堂）とその従業員
基地建設のため参加した米軍企業の従業員食堂
②ハウスメイド 米人家庭の身の回りの世話をした
③A サインバー



伊佐浜の田園風景 ▶
1955（昭和30）年頃沖縄一の美田と言われていた



◀ブルドーザーに押しつぶされた家（伊佐浜）
1955（昭和30）年

多くの悲しみの中、移り変わる世の中を逞しく生き抜く人々の様子を見て、「戦後80年」と言うことは、この国が戦争を起さなくなつて80年が経つことの意味や、この先「戦後90年」「戦後100年」と言えるよう、「これまで」を振り返り、「これからの未来」に繋がるきっかけになればと思います。
「二人でじっくり」でも、「大切な誰かと」でもかまいません。たくさんの方に見たいと思っています。

問 市立博物館 ☎870-9317

▼日時 12月14日(日) 4時～16時
(受付13時30分)

▼場所 市立博物館2階 研究室
来場参加40人(先着順)

▼対象 オンライン参加(ZOOM)
100人(先着順)

▼参加費 無料

▼申込期間 11月24日(月) 9時～

▼講師 秋山道宏
(沖縄国際大学准教授)

▼「戦後沖縄の社会とくらし」
戦後の沖縄について、社会とくらしの面から解説します。

▼博物館市民講座受講生募集！

はくぶつかん情報

◆戦後80年企画展Ⅱ
宜野湾 戦後生活史

▼日時 11月1日(土)～1月18日(日)

▼休館日 毎週火曜日・祝日・年末年始
(12月29日～1月3日)

▼場所 市立博物館

▼入場 無料